

謹賀新年



矢巾町長
高橋 昌造

あけましておめでとうござい
す。町民の皆さまにおかれましては、
健やかで希望に満ちた新年をお迎え
のこととお慶び申し上げます。日ご
ろより町勢発展のため、ご理解とご
協力をいただいておりますことに、
心から感謝申し上げます。

本町では4月から、第7次総合計
画後期基本計画が始動します。後期
基本計画は、平成28年度から令和5
年度までの町政指針を示した「第7
次総合計画」のうち、後半の4年間
について、町の方向性を示すもので
す。そして、この4年間は、未来へ、
住み良い町を確実につなぐため、大
切な期間です。前期基本計画に基づ
き実施した、各種施策の成果と課題
を正確に洗い出し、「希望と誇りと
活力にあふれ 躍動するまち やは

ば」の実現に向け、町政を推進して
いく所存です。

総合計画の根幹をなす基本構想で
は、町の将来像として、第1に「将
来を担うひとの創造」、第2に「将
来に誇れるまちの創成」、第3に「将
来の活力につながるしごと創出」、
第4に「将来にわたり躍動する力の
創生」を掲げています。その実現の
ため、後期基本計画の策定では、町
民の皆さまに総合計画ワークショップ
へご参加いただき、共に町の未来
を考え、議論してまいりました。

皆さまと一緒に熟考した計画は、
間もなく完成いたします。そして、
この計画の遂行が、町の未来を必ず
明るくものにしてくれると確信して
います。町民一人一人の思いを実ら
せるため、計画に盛り込まれる各種
施策を全力で、推進してまいります。

最後に、町勢発展のため、町民皆
さまのさらなるご理解、ご支援をい
ただきますようお願い申し上げます。こ
の一年が皆さまにとってすばらしい
年になることをご祈念いたしますし
て、年頭のあいさつといたします。

令和2年 元旦



矢巾町議会議長
藤原 由巳

町民の皆さま、あけましておめで
とうございます。令和初の新春、皆
さまには希望に満ちた新しい年をお
迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は、新天皇陛下御即位により、
平成から令和へ、新時代が始動しま
した。その中で、議会は改選を経て、
5人の女性議員を含む新たな体制と
なりました。本町では、待望の岩手
医科大学附属病院が移転開院、駅前
地区土地区画整理事業の竣工と大事
業が区切りの年ともなりました。

また、昨年大きな自然災害が多
発し、特にも本町と友好関係にある
普代村では、甚大な被害を被り、町
と議会では速やかに支援いたしました
。幸い、本町では大きな被害もな
く、基幹産業の農業では質、量とも
豊作基調で経過しました。この他、

本町出身の水本圭治選手がカーヌー競
技で本町初のオリンピック出場が決
定したことは大きな喜びです。併せ
て、小中学生や高校生がスポーツ・
文化の両面で、全国的に素晴らしい
成績を収めており、改めて選手やそ
の家族と関係者に敬意を表します。

さて、本年は、国道4号盛岡南道
路の路線確定や自然災害対策として
煙山ダムの浚渫、町内河川改修と
いった事業実施の他、農業振興、町
周辺地域の活性化、新たな住宅用地
の確保など、さまざまな課題解決に
向け、町当局と連携し一体となって
推進いたします。町議会主催の「町
民との懇談会」をはじめ、さまざま
な場面で積極的に町民の声を聴き、
行政に提言してまいります。

結びに、本年は子年、えとの初め
で大きな変化の始まり年とも言われ
ています。町民の皆さまには、この
一年が素晴らしい年となることを祈
念し、議会に対しても忌憚のないご
意見と、さらなるご指導を賜ります
ようお願い申し上げます、年頭のあいさ
つといたします。



今年の子年。かつて子年の矢巾町で起こった出来事を集めてみました。

昭和47年(1972年)



当時の徳田小PTAが学校へ、相撲道場を寄贈しました。徳田小新校舎の落成を記念したもので、道場開きでは、児童20人が真剣に取り組みました。

昭和59年(1984年)



町国民保養センター近くにゲートボール場が完成しました。町内50チームが参加した記念大会が開かれ、多くの町民が完成を喜びました。

平成8年(1996年)



本町で2つ目の中学校となる矢巾北中学校が開校しました。同校は近年、ハンドボールや合唱など、各種部活動が全国の舞台で活躍しています。

平成20年(2008年)



新矢幅駅と東西自由通路が供用開始となりました。新たな町の玄関口として生まれ変わり、多くの町民が駅の完成を通した町の発展に期待しました。

新春アルバム・プレイバック2019

未来への鼓動

新元号「令和」となった昨年、本町では、新時代の幕開けにふさわしい出来事が多くありました。1年間を振り返り、その一部を紹介します。



水本圭治さん(太田出身) 東京五輪出場決定!

太田出身の水本圭治さんが、今年開催の東京オリンピック・カヌー競技への出場を決めました。本町から初めての「五輪戦士」の誕生です。

8月、世界選手権で五輪切符を手に入れ、古里・矢巾に凱旋した水本さん。9月に行われた役場でのセレモニーでは、多くの町民が出場決定を祝福しました。

また、町内では後援会が発足しました。本番まで残り7カ月余り。応援をよろしくお願いします。

9月21日、県内唯一の大学病院で北東北の高度医療拠点となる、岩手医科大学附属病院が開院しました。地上11階建て、1千床を誇る大規模病院が完成したことで、町並みが変わりました。

附属病院の開院に合わせて、本町では救急車両の通過や交通安全対策のため、周辺道路の整備を行いました。病院前を通る町道中央一号線では片側2車線となり、歩道に加えて自転車通行帯を整備しました。



岩手医科大学附属病院が完成、開院



スポーツのまち やはば 声高らかに宣言!

本町は1月19日、「スポーツのまち やはば」を宣言しました。町民がスポーツを通して、健康で幸福な人生を送ることを目指すものです。

令和元年は、水本選手のオリンピック出場決定をはじめ、町内中学校の各種部活動での活躍など、スポーツの話題が後を絶ちませんでした。

今年もスポーツのまちとして、皆さんの各種大会における活躍を広報紙上で紹介していきます。